



Reitaku Overseas Development Association

RODA ニューズレター

一般財団法人 麗澤海外開発協会 会報

平成25年
(2013年)
6月1日

第17号

第11巻第1号
年2回発行

主な記事

- 巻頭 会長メッセージ
報 告 ラオス・スタディツアー開催
平成24年度事業報告
その他 寄付金等の報告

発行所：一般財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・木下廣太郎 / 編集人・横山守男



「一般財団法人」としてのスタートにあたって 心の通い合う国際協力を推進する

一般財団法人 麗澤海外開発協会
会長 廣池 幹堂

麗澤海外開発協会は、平成25年4月1日付をもって内閣府より「一般財団法人麗澤海外開発協会」として認可され、新たなスタートを切りました。

当協会は、「開発途上国において文化・経済の発展に協力するため、人材の育成と技術指導を行い、もって世界の平和、人類の安心と幸福に寄与すること」を目的に、昭和46年(1971)に外務省所管の財団法人として設立されました。以来40年以上にわたって、微力ながらも開発途上国における人材育成や教育支援を中心とした国際協力活動を推進してまいりました。今日までご支援を賜りました多くの皆様と、海外での活動にご尽力いただいた皆様に、あらためて心から感謝と敬意を表します。

現在は、主にネパールにおける医療支援、タイ北部の少数民族の子供たちへの教育助成、ラオスとカンボジアにおける学校施設建設等への支援、海外での自然災害に対する緊急支援等を行っています。また、平成15年からは麗澤大学名誉教授で当協会副会長の竹原茂氏(旧名：ウドム・ラタナヴォン氏(ラオス出身))を発起人とする「竹原基金」を設けるなどして、アジア諸国で貧困等の理由で学校へ通えない多くの子供たちへの教育助成事業も推進しています。

併せて、ボランティア研修を通じて国際協力に対する理解を深めるため、竹原茂副会長のご指導のもと、毎年、タイ、ラオス、カンボジア等におけるスタディツアーを実施しています。このスタディツアーには、麗澤の学生・生徒、そして全国の青年等が参加して訪問国での生活を体験し、現地の子供たちや青年との交流を深めることによって大きな感化を受け、みずからの新しい可能性を見いだしています。

今日、開発途上国の中には著しい経済発展を遂げつつある国が存在する一方、経済・教育・社会環境等において依然として厳しい状況に置かれている国々が存在します。

麗澤海外開発協会では、このたびの一般財団法人への認可を機に、これまでの経験と実績を踏まえ、あらためてその使命を確認し、開発途上国を中心に心の通い合う国際協力活動をいっそう推進していきたいと念願しております。今後とも、当協会の諸事業に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

竹原 茂先生
最終講義

私が見た麗澤大学 東南アジアの地政学的な視点から考える



竹原 茂（旧名：ウドム・ラタナヴォン）外国語学部前教授（現・名誉教授）の最終講義が2012年12月13日に麗澤大学 校舎「かえで」1601 教室において、竹原先生を慕う大勢の学生、卒業生、教職員約 100 名が見守る中、行われました。竹原先生は、「教室での講義だけでは伝えきれない東南アジアの抱える諸問題を実際に見せ、肌で感じさせたい」と 1989 年からスタディツアーの企画・運営に力を入れてきました。そこで、日本では当たり前のことがいかに特別かという多くの気づきを、参加した学生たちに与えてきました。グローバル化が著しい社会で生きる学生たちには、東南アジア諸国を

もっと身近に感じ、日本は「アジアの一国」という意識を持ってほしいと訴えます。「自国の文化を相手に押しつけるのではなく、お互いに理解し合いながら柔軟に対応すべきです。学生には、社会に出る前にそのような異文化理解、多文化共存の精神を身に付けてもらいたい」と力強い口調で語りかけました。また、ラオスからの亡命者であるにも関わらず、廣池学園に温かく迎え入れていただいた先代の理事長 廣池千太郎先生との出会いは「生涯忘れえぬ恩」と声を詰まらせる場面もありました。「私は、1976 年にラオスから亡命し、難民になりました。長年辛い思いをしてきましたが、祖国のことを考えなかった日は1日也没有せん。学生としっかり向き合うことが廣池学園への恩返しだと思って教員生活を送ってきました」と振り返りました。

祖国への入国が危ぶまれる中でも、竹原先生はラオスに小学校を建設するプロジェクトを立ち上げ、活動を続けました。そして、2011年には故郷のサワンナケート県タートインハン村に図書館を贈呈。長年の夢が実を結んだ瞬間でした。また、「貧しい村の子供たちに教育の機会を与え、正しい判断ができるリーダーを育てたい」という思いが多くの学生の心を動かし、麗澤大学にはタイ・ラオスの教育支援を目的とした複数の課外活動団体が誕生しました。現在もその思いを受け継ぎ、「プアン」や「RISOVP（リソップ）」といった学生団体が持続的活動をしています。最後に、「学生に伝えたいことが山ほど残っている」「もっと麗澤大学に貢献したい」と涙しながらも、「私の命が続く限りは、麗澤大学のこと、学生たちのことを思っています」と締めくくりました。そして、「長い間ご苦労さまでした」と廣池理事長、サークル団体「プアン」の学生より、花束と共に竹原基金への 50 万円の寄付目録が贈られました。「東南アジア諸国のために、学生たちが大切な活動資金の一部を今回、竹原基金に寄付してくれたのはとても嬉しいこと。このような国際的な視野と思いやりの心を持った学生たちに育ってくれて、私が教えてきたことは間違いではなかった」と竹原先生は感無量の面持ちで、教員生活を振り返りました。



ネパール 医療技術支援

75回目のヘルスキャンプを実施 現地鍼灸師の育成と巡回治療を進める

ティテパティよもぎの会 会長 畑 美奈榮

2012年8月19日から25日までネパール南部、ルンビニ県バイラワ市において、ネパール赤十字バイラワ支部の協力と、日本人鍼灸師18名、専攻塾20期生1名およびネパール人鍼灸師7名とともに、75回目となるヘルスキャンプ(無料巡回治療)を実施しました。7日間で4,986名と、昨年を大きく上回る患者さんの治療をさせていただくことができました。バイラワは釈迦誕生の聖地ルンビニから近距離にあり、日本からの観光客も多い地ですが、ネパール随一の酷暑地で開催した8月は連日40度を超える毎日でした。幸い日本から参加いただいた先生方、ネパール人スタッフとも何事もなく、7日間を過ごせたことをうれしく思います。今回のバイラワの大きな特徴は、この地に大きな病院がないことですが、インドとの国境まで2キロという地で、カトマンズまでの300キロより、はるかにインドに近いので、病気になると国境を越えてインドへ治療に行くそうです。疾病で多かったのは湿度(高温多湿による汗の影響)によると思われる関節炎、神経痛でしたが、生活様式(農業、家事労働)が原因と思われる腰痛も多く見られました。参加者、患者数が年々増え、ネパール側の協力も積極的になり、ようやくネパールに鍼灸・指圧が普及し始めた実感しました。今後も「ヘルスキャンプ」を続けたいと決意を新たにいたしました。

バイラワ・ヘルスキャンプに参加して

モラロジー専攻塾 第21期生 岡田宙子



よもぎの会「バイラワ・ヘルスキャンプ」に、アシスタントとして参加させていただきました。鍼灸師ではない私の参加を快く承諾してくださり、またキャンプ中も不慣れな私を温かく見守ってくださった畑美奈榮先生をはじめ、諸先生方には大変お世話になりましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。言語や治療環境など様々なバリアのなかで、そして患者さんが引切りなしにやって来るなかで、いかに多くの患者さんに治療を施すか、しかし一方で、一人ひとりの患者さんとどのように真摯に向き合うかという葛藤も、先生方からうかがい知ることができました。「本気の世界」で生きる先生方のお姿に間近で接しさせていただくことは、私の稚心を去るうえで大切な時間でした。先生方がより治療しやすいように、私ができるアシスタント業務全てに対して心を尽くすよう務めさせていただきましたが、今思い返してみますと、至らないところも多々ありました。そんな私に対しても「あなたがいてくれて本当に助かった。有難う」と先生方からおっしゃっていただきました。お世話になりっぱなしなのは私のほうですのに、先生方の優しく、低く、温かいお人柄やお心づかいに感激しました。

キャンプ中は、毎日のように昨日のことを振り返り、よく考え、反省をして、日々新しい気持ちでアシスタント業務にあたらせていただきました。そういったことを通して、新しい自分の可能性に気づかせていただきました。このヘルスキャンプに参加する前の私は、自分自身のことを無能な人間と考えていて、将来に対して漠然とした不安を抱えていました。そのため、何事にも積極的になれずに、何か行動する際にブレーキをかけてしまいがちでしたが、畑先生から「積極的な人は伸びるのよ！」と熱心にお話をしていただき、これからの研修に向けて活を入れていただき、背中を押していただきました。先生のお言葉のおかげで、ヘルスキャンプ終了後のネパールでの孤児院研修でも、アグレッシブに行動することができ、大きな学びと勇気と成果をいただきました。

第9回ラオス・スタディツアーを開催

平成25年2月6日から10日間、9回目のスタディツアーを行いました。今回のスタディツアーでは、サワンナケート県サワンナケート大学へ図書書を贈呈することを主な目的としました。麗澤大学の学生・教員・職員の皆様から集まった図書約2000冊をサワンナケート大学の図書館へ贈呈しました。また、ヴィエンチャン国立大学とサワンナケート大学の二つの大学の学生とそれぞれ交流会を行いました。また現地のNGO団体を訪問し、国際協力の実態を学び、あらためて国際協力の難しさを感じました。ラオスの伝統文化・食文化の体験や人々との交流を通して、さらにラオスへの興味が湧いた旅になりました。



竹原茂・副会長引率のもと、ラオスの文化を知り、多くの交流をしてきました



ヴィエンチャン国立大学で交流



イライ村を訪問

参加者の声

麗澤大学

国際交流・国際協力専攻2年

平賀 絢子

スタディツアーを経験して

英語能力と知識、両方の大切さを実感

ラオスには日本が浸透していると感じました。ヴィエンチャン大学で日本語学科生と交流した際に、日本語の勉強をする動機を聞いてみたら、「日本がラオスを支援してくれたから、そのお礼がしたい。日本とラオスの架け橋になる通訳になりたいから」と話してくれて、大変感動しました。様々なNGO団体などがラオスを支援していて、彼らはそれに対して感謝をしている。しかし、私たち日本人はあまりその事実を知らないということが情けなく思いました。そして、自国のことをあまり知らないことが思い知らされました。また、サワンナケート大学の副学長先生が夕飯に招待してくださり、そこで大学の先生方と英語で話をしました。「日本人は完璧な英語を話さないといけなく思ってしまう」と伝えたところ、「間違いを怖がることはない。アジア人は皆英語が母国語じゃないから、完璧に話せないのは当たり前」と言ってくださり、励みになりました。同時に、語学力をつけるためにはどんどん使わなくてはいけないと思いました。

次に小学校を訪問しました。生徒たちが私たちを出迎えてくれ、パーシーを行ってくれたり、昼食もご馳走してくれました。ここではRISOVPとして現地調査ができて、とてもよかったと思います。生徒たちが私たちのために踊りをいくつも披露してくれたので、私たちもお返しに、歌と紙芝居を行いました。生徒たちが沢山集まってきて、とても嬉しかったです。しかし、ちょうどお昼の時間と重なってしまったため、生徒たちとほとんど遊ぶことができなかつたのが残念でした。本当に毎日が濃く、充実しており、今回参加できたことをとても嬉しく思います。社会人の参加者もいたので、様々な視点からの情報を得ることもできましたし、竹原教授からも沢山のお話を聞いて、本当に収穫の多いスタディツアーでした。このツアーに参加できて、本当によかったと思います。これからの自分の活動の糧にしていきたいです。



サワンナケート大学に図書 2000 冊贈呈

サワンナケート大学関係者より
感謝のメールが届きました

貴学からの寄贈本は、大学の財産として非常にありがたく、感謝の念に堪えません。特に、当地は日系企業の進出が将来的に有望視されており、日本語の教育にも注力する方針なので、日本語の書籍は何よりありがたいです。もちろん外国語の書籍は、書籍自体が入手しにくいラオスに於いて、貴重な財産であることは間違いありません。



これからもっと日本語の勉強をしていきます！

**多くのご支援をいただき、
ありがとうございました！**



学生、教職員の寄付により 2000 冊の本が集まりました

本当の支援とは何か？

その答えを見つけることが次の目標に

麗澤大学

国際交流・国際協力専攻 2 年

江袋 奈々

実際に自分の目で見てきて、本当に必要な支援が何なのかを見つけてくるのが今回のスタディツアー参加の目的でした。毎日のスケジュールはとても充実していました。NGO団体への訪問、現地の大学生との交流、ラオスの食文化や托鉢体験など、さまざまなことを経験することができました。料理は本当にカルチャーショックを受けました。とにかく辛い料理が多くて多くて、胃が荒れてしまったり下痢してしまったりと、自分自身の舌とお腹で食文化の違いを感じました。本当にスタディツアー中は母の料理が恋しかったです。また、ラオスに行って自分の語学力のなさを痛切に感じました。向こうでの大学生との会話は英語でした。交流会では一歳年上の女子学生と話しましたが、相手からの質問がほとんどで、私は答えるのに精一杯でした。話したいことは頭に浮かぶのに単語が出ず、うまく英語で表現することができないということが、とても悔しかったです。いざコミュニケーションをとろうとすると、世界の共通語である英語が話せなければどうしようもないと痛切に感じました。最初に話した目的については、結局、達成されなかった気がします。本当に必要な支援が何なのか。これだ!! と感じるものが見つかりませんでした。タートインハン小学校で先生方に今一番ほしい支援はなにかと尋ねたら、「パソコンが欲しい。インターネットをつなげたい」という予想外の答えが返ってきました。勉強に必要な文房具や教科書などが足りてないのでは? と考えていたので、パソコンと言われた時は支援が本当に必要なのか、一瞬考えてしまいました。支援をするかしないかをどう判断するのか、海外への支援とはどういうことなのか分からなくなってしまいました。これからの大学生活で考えていかなければならない課題だと思います。

小学校の今のタートインハン



タートインハン小学校を訪問すると、前村長をはじめ、村長・校長・教員・小学生たちが手作りのレイで出迎え、歓迎の儀式バーシーの後、小学校 2・3 年生による歌と踊りが披露されました。その後、学生たちが桃太郎の紙芝居の読み聞かせをすると、はじめは遠巻きで見ている子供たちも最後には学生を囲むほど近づき、大変興味を持ったようで、大いに交流の目的を果たしました。子供たちの将来に思いを馳せ、更なる発展を祈りました。



紙芝居を披露



校舎



教室

タートインハン村 初の図書館

蔵書数も増え、生徒や村人に活用されています

この図書館は、平成 20 年に竣工したタートインハン小学校の校舎建設に続いて当協会が支援事業として平成 23 年に建設したものです。タートインハン村に初めてできたこの図書館は、生徒だけでなく、村人も利用でき、図書館司書の研修を受けた小学校の教諭10名が交代で管理しています。今回のスタディツアーでは、学生グループ RISOVP (リソップ) から、絵本 21 冊のほか、ノート、クレヨン 消しゴム、鉛筆削りが贈呈されました。これは、RISOVP の活動の一環として学園内で募集した書き損じはがきを現金化して購入したものです。



新たに贈呈されたラオス語の絵本

今後も、図書館がより多くの人々に活用され、サワンケート県と当協会の親睦が深まるよう願っております。



本は種類ごとにきちんと整頓されています



学生たち手作りのプレートも掲示されます

—平成24年度事業報告—

1. 技術者の派遣および支援事業への助成について

- (1) ネパールにおいて東洋療法(鍼灸・指圧)により住民の健康回復に寄与するために、日本人専門家を派遣して治療技術者の育成と治療に使用する「もぐさ」の製造技術者を育成し、その自立のための支援と助成を行った。
 - ① 日本人専門家を派遣してネパール人鍼灸師および治療用「もぐさ」製造技術者を育成し、自立のための支援と助成を行った。
 - ② ネパール赤十字カトマンズ支部が運営する東洋医学専門学校(OTTC)とクリニックへの支援と助成を行った。
 - ③ 「ティテパティよもぎの会」が東洋医学専門学校(OTTC)や日本人専門家の技術支援を受けて実施した無料巡回治療(AMAヘルスキャンプ)への支援と助成を行った。
- (2) タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の児童に対する生活・教育支援施設の運営事業を実施しているメーコック財団への支援と助成を行った。
- (3) ラオスにおいて次の教育支援に関する打合せを行った。
 - ① サワンナケート大学への圖書の寄贈を行った。
 - ② ヴィエンチャン大学において、ラオス人留学生受入れに関する打合せを行った。

2. スタディツアーの実施について

- (1) 東南アジア諸国で活動する支援団体等の現状を視察し、ボランティア研修を通じて海外NGO活動に対する理解を深めるためにスタディツアーを実施した。
 - ① ラオス・スタディツアー
 - ・訪問先 ラオス(ヴィエンチャン、サワンナケート)
 - ・日 程 平成25年2月7日(木)～2月15日(金)(9日間)
 - ・参加者 9名(引率:竹原茂副会長、青木文幸事務局員)計11名
- (2) 麗澤各校が主催するスタディツアーへの支援と協力を行った。
 - ① 麗澤大学タイ・スタディツアー
 - ・訪問先 タイ(チェンマイ、チェンライ、バンコク)
 - ・日 程 平成24年8月22日(水)～8月31日(金)(10日間)
 - ・参加者 8名(引率:梅田徹教授、山中香・小林霞事務局員)計11名
 - ② 麗澤高等学校タイ・スタディツアー
 - ・訪問先 タイ(チェンマイ、チェンライ、バンコク)
 - ・日 程 平成24年12月20日(木)～12月28日(金)(9日間)
 - ・参加者 8名(引率:折笠愁子教諭、山中香事務局員)計10名

3. 研究・調査について

- (1) ネパール国カトマンズ市の援助団体である「ティテパティよもぎの会」の現状と今後について、打合せを行った。
 - ・訪問先 ネパール(カトマンズ)
 - ・日 程 平成25年2月13日(水)～2月16日(土)
 - ・出張者 俣野幸昭理事、廣池英行評議員

4. 講演会・報告会について

- (1) NPO法人 難民を助ける会(AAR Japan)のラオス支援事業説明会を行った。
 - ・内 容 AAR Japanの支援活動を学び国際協力について考える。
 - ・講演者 岡山典靖

5. 出展活動について

当協会の活動に対する理解と支援を広げるため、写真展示やタイとネパールの民芸品等のグッズ販売、会員募集案内等を行った。

- (1) 「伝統の日・感謝の集い」
- (2) 「モラロジー生涯学習フェスタ2012」

平成24年度 正味財産増減計算書

(単位 円)

6. 賛助会員募集状況について

- (1) 賛助会員・寄付金・竹原基金の募集を行った。
 - ① 賛助会員 法人(団体): 7団体 / 個人: 125件
3月末時点の賛助会員数: 176名)
 - ② 準会員 51件
 - ③ 寄付金 149件
 - ④ 竹原基金 69件

経 常 収 益 の 部		経 常 費 用 の 部	
① 基本財産運用益	139,999	I 事業 費	
② 賛助会員受取会費	1,750,000	① 海外調査費	390,510
③ 準会員受取会費	104,000	② 海外旅費	2,468,081
④ 受取寄付金	1,847,702	③ 広報活動費	105,535
⑤ 受取竹原基金寄付金	1,306,648	④ 図書資料費	304,425
⑥ 受取利息	2,142,994	⑤ 雑 費	426,401
⑦ 雑 収 益	0	⑥ 緊急援助費	0
経常収益合計	7,291,343	⑦ 支払助成金	1,570,000
		事業費合計	5,264,952
		II 管 理 費	2,917,328
		経常費用合計	8,182,280
		当期正味財産増減額	△ 890,937

7. 法人移行申請認可について

公益法人制度改革検討委員会の答申を受け、新法人化に向けての準備委員会を設置し、内閣府公益認定委員会へ一般財団法人への移行認可申請を行い認可された。

- ・平成24年12月20日(木) 一般財団法人への移行認可申請
- ・平成25年3月21日(木) 内閣府公益認定委員会より「認可書」授与
- ・平成25年4月1日(月) 一般財団法人麗澤海外開発協会登記

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成24年11月19日～平成25年5月18日)

■会費 (81名)

望月雄二、長谷和治、土谷和光、荒木郁雄、渡辺康博、長谷川武、高松宇佐雄、横山守男、小松務、平川恵一、山本祥子、望月靖子、合資川貞商店、石渡英雄、大村金三、長谷篤治、山田雅雄、佐藤薬品工業(株)、松本哲洋、小西直之、藤村薫、野田好秋、望月一雄、望月敏雄、望月淑子、俣野幸昭、桑島義智、(株)小松製菓、(株)スーパーバリュー九州本部、梅村元成、小山松男、横尾昭男、小嶋義佑、前田三作、和田悦治、長谷川和子、東海林新彦、堀内一史、太田徳昭、中川千恵子、大内栄三、永治達彦、島田京子、上田通泰、福井博康、荻野益男、桑島朋子、白木貞一郎、平塚靖永、須見好和、森定昌代、星野修一、上田敏子、武澤保美、松岡孝柁、木津孝道、河村満、前田晃伸、熊木亜夫、松本彰夫、風澤俊夫、岸上肇、山本栄道、井川好長、岩田英志、山口秀正、横山明弘、宮川登志司、黒白常光、澤政利、菅澤運一、藤井啓雄、平野隆夫、平賀絢子、小野貴仁、江袋奈々、石井千晃、竹原俊広、長谷真千子、藤尾侑男、山本浩

■準会費 (21名)

望月賢一、俣野貴昭、向山正男、木村寛、大嶋久幸、神野幸夫、木崎重安、林正勝、俣野喜代美、俣野智美、樋口恵美、松浦智美、福田靖久、大山圭子、長谷英治、長谷美世子、岡田宙子、長谷遵、佐藤惇、西川陽一、林正勝

■一般寄付金 (70名)

望月雄二、長谷和治、堀部房男、渡辺康博、横山守男、坂井モロロジー事務所、山本祥子、大山寿々枝、館林正孝、(株)ダイキョーブラザ、長谷篤治、山田雅雄、大垣モロロジー事務所、小西直之、野田好秋、俣野幸昭、桑島義智、(株)小松製菓、前田三作、和田悦治、長谷川和子、東海林新彦、井上源一、増田一江、伊東俊太郎、濱井利一、上田通泰、福井博康、荻野益男、井上照悟、松岡孝柁、上田宗雄、藤井啓雄、大山圭子、飯島孝之、板橋芳夫、岩坂憲道、柿本勇人、笠田環嗣、勝矢啓司、橋高重久、窪田健吾、小野義仁、早乙女静子、佐久間三郎、佐藤孝子、篠原正隆、鋤柄誠治、鈴木靖久、関俊章、玉井哲、箱田俊雄、増田顕次郎、松浦貞雄、松元郷子、松本保、三笠忠克、三上ハツミ、みのる産業(株)、森与喜男、(株)ダスキン東横、MGC九州サークル、大阪和泉モロロジー事務所、大阪府モロロジー協議会 青年クラブ、金沢モロロジー事務所、塩竈モロロジー事務所、静岡県モロロジー協議会女性クラブ、三原モロロジー事務所、中日本生涯学習センター、廣池学園 まんりょうの会

■竹原基金 (48名)

甲良昭彦、望月雄二、嶋田順子、田中駿平、新井秀啓、長谷和治、土谷和光、高松宇佐雄、横山守男、平川恵一、山本祥子、大山寿々枝、長谷篤治、山田雅雄、松本哲洋、小西直之、野田好秋、桑島義智、小嶋義佑、前田三作、和田悦治、長谷川和子、東海林新彦、堀内一史、上田通泰、福井博康、荻野益男、桑島朋子、木津孝道、杉山直、山本栄道、藤井啓雄、大山圭子、ウィクラマラタナ文子、加藤栄一郎、桑島祥子、三保博子、山田荘一、篠原正隆、鋤柄勘治、鋤柄誠治、飯島孝夫、支援キルトの会、(株)めこん、麗澤大学プアンサークル、新潟モロロジー事務所、(株)ピアかざりや、山本浩

《会員・準会員募集中》

麗澤海外開発協会は、皆様からお寄せいただいた会費や寄付金によって活動が継続されています。会員および準会員を募集していますので、是非ご入会くださいますようお願いいたします。

種類	年額
会費	1口1万円(1口以上)
準会費	1口2千円(1口以上)
法人会員	1口1万円(1口以上)
竹原基金	任意の寄付金を募ります
一般寄付金募金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
 名義(財)麗澤海外開発協会
 ※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。
 銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567
 名義(財)麗澤海外開発協会

一般財団法人 麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065

千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL：04-7173-3165

FAX：04-7173-8953

E-Mail：kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

H P：http://www.reitaku.or.jp/



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。
 掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。
 ご連絡のない場合は、掲載にご同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。